



Vol. 120

CONTENTS

- 【コラム】 高校教科「情報」、中高年には「隔世の感」…杉本 貢
- 【解説】 全国大会イベント「2025年実施の大学情報入試への展望」の報告…小宮 常康・佐藤 喬
- 【解説】 学習履歴データの標準化技法— Experience API (xAPI) 編— …古川 雅子



COLUMN

高校教科「情報」、  
中高年には「隔世の感」



どれだけの保護者が、この教科書を読んだことがあるのだろうか。高校の教科「情報」だ。2025年の大学入学共通テストに追加されると、高校の教育現場は大きく変わる。私自身、教科「情報」の取材を始めたとき、買い求めた教科書の内容の濃さに驚いた。

地元の高校でPTA役員をしている知人に尋ねた。ITエンジニアの彼も「本格的にプログラミングをしているところがあるとは。最近ではコンピュータの授業がある、くらいの認識しかなかった」という。

共通テストで「情報」を受験するのは、2021年春に中学3年生になった生徒からだ。小学生の息子を持つ別のエンジニアには、大学入試センターが公表したサンプル問題を見てもらった。「小学校でプログラミングの基礎は学んでいるが、高校では実際にプログラムを書く力をつけないと解けないだろう」という。疑似言語を使った問題などはそうだろうと思った。

共通教科「情報」の教科書は現在、「社会と情報」と、プログラミングなどを盛り込んだ「情報の科学」がある。先に書いた「驚いた」教科書は「情報の科学」。ネットワークアドレスなど、技術系ではない親世代には馴染みのない、数々の言葉がある。

まだ入試科目でないからか、現状では保護者の関心は薄そうだ。授業を見てもらう学校開放日。ある高校の「情報」の授業には参観する保護者の姿はほとんどなかった。

今後、「情報」の入試が現実味を帯びれば、否応なく関心が高まるだろう。教科書を開き、私同様「驚く」保護者は少なくないのではないだろうか。自分たちの受けた高校教育とは隔世の感があるからだ。

教科書の内容は、学会誌の読者の皆さんはご存知と思い、割愛する。ここで、私がなぜ教科「情報」の取材を始めたか、を語ろう。

情報技術にかかわったのは15年ほど前。記者からデジタルメディア部門に異動になり、サイト構築などで外部のエンジニアとやりとりするようになった。ところが、飛び交う専門用語が理解できず、悔しい思いを重ね、自然と関心を持った。定年後、通信制のサイバー大学IT総合学部に入編した。学び直したかったからだ。おかげで先のサンプル問題も満点にはほど遠いが、なんとか解けた。教科「情報」が充実すれば、若年層のリテラシーは一気に向上するだろう。逆に気になったのが一般社会人との格差。教科書は、国民全体の底上げも課題と感じさせてくれた。



杉本 貢 (元中国新聞編集委員) sugimoto3207@gmail.com

中央大学法学部を卒業し1981年、中国新聞社(本社・広島市)入社。報道部記者、メディア開発部長、経済部長、編集局次長などを経て定年後から2021年3月末まで編集委員。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno